



発行所  
全国労働組合連絡協議会  
東京都港区新橋4-21-7 三つるや加藤ビル4階B  
TEL 03-5403-1650  
FAX 03-5403-1653  
発行人 渡 邊 洋  
定価 1部 40円  
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

## 烏森日記

台湾有事を巡る岡田議員の追及に、高市首相は「存立危機事態になり得る」と答弁、日中関係は最悪の事態になった▼執拗な追及に非があるとの

批判もあるが、就任前に勇ましい発言を重ねてきた御仁に對し、重要な国策上の判断を誤らぬようその姿勢を質すのは当然。あるいは、しつこく問われてつい本音？だとすれば、それはそれで宰相失格！

だが、一方で政治の介入の常態化は、高市政権の登場によって真逆に作用する可能性を広げるだろう。

最低賃金審議書を労働組合が包囲し監視する取り組みが世論を突き動かしてきたことに改めて自信と確信を持ち、より力強い最低賃金闘争を組織しよう！

規制が若手社員のやる気を奪っている。しかし厚労省が示した調査結果では、今よりも長時間働きたいという労働者の割合は六・四％、ゼロではないがごく少数だ。過労死や業務起因の精神疾患の件数等は、働き方改革以降も減少していない。残業代の減少云々は論点のすり替えであり、長時間働きたいという話とは全く違つた。取り組みを強めよう。

# 賃金政策・最低賃金・労働時間規制で

## 強まる逆風の中、真価が問われる26春闘

渡邊 洋 全国労働組合連絡協議会議長

高市政権が発足したが、国会論戦が進むにつれて新政権の本性が明らかになってきている。前政権までの「物価上昇を上回る賃上げ」という掛け声は雲散霧消。石破前首相の掲げた最低賃金引き上げ目標も捨てられ、働き方改革の柱である労働時間規制も否定されようとしている。

続けているが、一部の投資家を除いて好況感は今も少ない。むしろ、円安と物価高騰が実質賃金の低下を加速させ、労働者市民の生活を圧迫している。

岸田・石破政権が掲げた「新しい資本主義実現本部」では、新自由主義的経済政策がもたらした格差拡大に歯止めをかける必要性に触れざるを得なかった。その中には「働く人への分配機能の強化」や「エッセンシャルワーカーの収入増」「物価上昇を上回る賃上げ」などが謳われてきたが、新政権は「日本成長戦略本部」に衣替えると同時に「分配」に言及する気配はなくなった。

## 「分配」とは無縁の「サナエノミクス」

器輸出拡大、非核三原則の見直しなどに躍起となり、台湾有事を巡って中国との対立を煽る強硬姿勢を強めている。政権発足後、「サナエノミクス」のおかげか株価は上昇を

「新しい資本主義実現本部」では、新自由主義的経済政策がもたらした格差拡大に歯止めをかける必要性に触れざるを得なかった。その中には「働く人への分配機能の強化」や「エッセンシャルワーカーの収入増」「物価上昇を上回る賃上げ」などが謳われてきたが、新政権は「日本成長戦略本部」に衣替えると同時に「分配」に言及する気配はなくなった。

日本は低賃金構造を規定してきた最低賃金に対して、岸田元首相は「二〇三〇年代半ばに全国平均一五〇〇円」を掲げ、石破前首相は「二〇年代中に」と目標を前倒しした。私たちが主張してきた「い

た。私たちが主張してきた「い」こうした動きの背景には、ますます全国一律一五〇〇円以下賃金を巡る世論の高揚がある。

労働時間規制緩和は、労働政策審議会の中で経営者側代表の各委員が繰り返し主張している。いわく、いき過ぎた

十一月二十三日東京都南部労働会館にて戦争NO！改憲NO！平和が一番！税金は軍活躍の歪み」と題して講演を受けた。

子さんより「女性労働とジェンダー平等」「反差別なき女性活躍の歪み」と題して講演を受けた。雇用機会均等法とは何だったのか、均等法が施行されてから女性の給与所得は上がっている。年収三〇〇万円以下が七割から五割に減少した。最多ゾーンは一〇〇～二〇〇万円は変わらない（男性は全体の二割程度なのに）。

## ストライキで大幅賃上げを勝ち取る闘おう！春闘2026



労働を！生活を！そして社会を変えていく春闘を！

25春闘は「満額回答」ラッシュだったが、もはや官主導の賃上げに期待することはできない。26春闘は「お願い」であってほしくない。労働組

全労協・東京全労協  
26団結旗開きに参加を！

日時 1月16日（金）  
18時30分～20時30分

会場 東京都庁第2庁舎  
4階職員クラブ（食堂）



竹信三恵子講師を交えて交流会

竹信三恵子講師を交えて交流会  
最初には全労協渡邊洋議長が、協会の来賓あいさつを受け、第一部はジャナリ門職（介護士、保育士など）の賃金の低さなどが招いている。均等になるには男性並みに残業も転勤も厭わず働くし

## 「有効資源」としての女性活躍政策を批判する

●全労協女性委員会第35回総会

竹信三恵子さん記念講演

第二部は総会となり、藤村幹事より経過報告と方針が提案された後、参加者より闘いの報告がされた。女性ユニオン東京の性暴力との闘い、千葉市非常勤職員組合の会計年度任用職員制度との闘い、大阪・愛仁会のパワハラ裁判闘争などが報告された。女性を「資源」としか考えていない

初めは女性首相誕生は女性の分断を生む結果となった。私たちは女性であるとか否かではなく、本質的な政策点検と政策批判を実現していかなければならない。ポリウム満点の講演だった。

女性の人権と昇進が分離されたのだ。いまだに女性の労働は家計補助とされ、一だから賃金は低くてもいい。夫セーフティネット」があるから何かあったら頼れ

「有効資源」としての政府の女性活躍政策だ。